

全同盟不眠不休十餘日

痛快淋漓の勝と痛熱涙の吞

組織的活動能力を遺憾なく發揮した 政治部

今回の政變は同盟成立以來第二回目のものであった。然かも二・二六事件直後の時とは相違して其の陣容が大いに整備せられたのであるから大同盟の威力を遺憾なく發揮し得る絶好のチャンスだったのである。それ丈に社員一同の緊張振りには堪えぬものがあった。ことに政變にあつてニュースの第一線をカバーした政治部員の活躍は自ら省みて恥するところなしと敢て信するものである。議院停會、廣田内閣總辭職、宇垣大將に大命降下、宇垣内閣遂に流産、林大將への大命降下、閣員の額觸れ決定等々の重要ニュースをキャッチするに當つては出来る限りの努力と不眠不休の努力を傾けたのである。然かも個々のニュースに就き一正確迅速の同盟精神に生きることに努め、先走つて累を全國各新聞社に及ぼし同盟の價値を傷けるが如きことのない様努めたのであるが、大體に於て此の目的が達成せられたことは我々政治部として喜びに堪へない次第である。但し我々は今回政變の結果に満足するものでなく、尙取材上注意し努力すべき點のあることを充分認識するものであつて、同盟精神の理想を生かす意味で尙一層の精進をせねばならぬと考へてゐるが、茲に政治部が如何なる手配を行ひ、如何なる努力を振つたかといふことを一言述べて社員諸兄の御叱咤と御注意を乞ふとする。

今回の政變は其實に於て又其量に於て二・二六事件後の政變に類する相似たものが多かった。所謂新日本主義を標榜する新勢力が革新政策具現を目標に既成勢力の打倒

を旨とし、我國は此の意味で動くとも一歩前進を遂げたものである。少くとも通復議會を乗取る迄はと必死の努力をして来た廣田内閣が軍部政黨の正面衝突に依つて板狭みとなり、あえなくも總辭職の已むなきに至り、又大政治家を以て自他に許してゐた宇垣大將が其の組織に失敗して大命を拜辭した如き、此の間の事情を確解に物語るものである。

政治部は此の事實を認識し、其の政變と同時にニュース取材の重點を

- (イ) 西園寺公を中心とする元老重臣方面
- (ロ) 陸軍を中心とする軍部の動向
- (ハ) 政黨、貴族院並びに財界方面の觀測
- (ニ) 大命降下後は組織本部の往來動靜

に置くこととし、更に大命降下に備へては有力なる首相候補者等に急電電話を架設して部員を配置した特に宇垣大將に大命降下に際しては長岡に部員一名を特派したのであるが、尙電話爭奪戦の行はれることを豫想して本社より長岡の旅館に一、二分間隔で申込電話をかけて手配をとつたのであつた。

宇垣大將に大命が降下するや、廣尾の組織本部前庭に急造天幕を設け部員の大半を動員して當宵組織の成行を監視し速報に當つたのである。然しながら宇垣大將の組織に對しては軍部の反對が頗る強く、一方組織本部は飽く迄も組織に邁進することを聲明する有様であつた爲、何等かの突發事故

がありはせぬかと云ふことを非常に心配した。其の場合同盟が組織本部に急設した電話が使用出来るか否かと云ふことである。然し如何なる場合でも少くとも第一報又は本社に送る一今から考へれば一寸滑稽にもみへるが、覺悟はしてゐたのである。

惡戰苦闘實に五日宇垣内閣が刀折れ矢盡きて流産した時は、寒風と戦ひながら又五日間天幕内に頑張つた部員にもさすがに疲勞の色が見えて来た。然し飽く迄も社旗を守る決意を持つ我々は次の戦



急造天幕内で報道陣を張る記者團

廿九日夜林大將に大命降下の速報をすると同時に我々も天幕を巻いて青山の組織本部に移つた。ジブシーの夫れ如く、茲でも革新意識を濃厚に持つてみたといはれる參謀十河氏の退陣迄は相當波瀾があつたが、大橋氏が采配を振つてからは組織工作は比較的順調に

進んだ。従つて閣僚の額觸れがニュースの中心をなして来たので、専ら其の方面に努力を傾倒した組織本部への出入者は誰彼の區別なく氏名を訊し、談をとりつて組織本部の組織進行振りを警戒すると共に、有力な組織候補者には夫れ夫れ人を派し其の動靜を嚴戒したのである。かくて四日間、一月一日午前九時になつて組織本部から閣員名簿が發表せられる迄、辛人れ辨當と觸の干物で元氣をつけながら奮闘を續けたのである。勿論之は組織本部の活動を中心と述べたもので、其間本社政治部デスクを始

名古屋支社としては先づ聯絡部が通信に供給先對し敏速聯絡の任務を盡し、經濟部は各得意先への速報に遺漏なきを期し、社會部は擔當方面から大臣候補者が出た場合の取材に當らねばならない。聯絡部の一端には大朝、新愛知、名古屋三社の市内専用電話が常に待機の姿勢にある(大母は普通市内電話で聯絡する)、所謂一觸即發、チリンと鳴れば直ぐに先方の速記者が飛び出して来る。豊橋濱松の兩支局、三重岐阜縣下の各紙、それに特に本社から委嘱された静岡の新聞何れも時に繼ぎ放しの儘各擔當者は何れも耳を免のようにして、正に重要ニュースを送られるとする専用線に全神経を傾倒してゐる。他には該一ツする者もない、誠に崇高とも言ふべきシマの一時である。

凡てが渾然一體の働きた 名古屋支局

非常時、特殊事情下に、沍寒の幾夜を過した政變、本社多数記者諸兄を首め關係各局部の不眠不休の御活動に對し先づ深甚の敬意を表したい。

當支社としては、この本社の非常な苦心活動の結晶ともいふべきニュースの一ツくを、吾々の努力の不足によつてその効果を減殺するやうな事があつては誠に申譯のない次第であるから、最善と思ふところを盡して管内各方面との聯絡配信に當つたつもりである

通信の成績について事後に於て之を見れば一、遺憾なものもないではなかつたようであるが、支社としては一に本社の活動に依存することであり、其成績も既に本社に於てお判りの事と思はれるから茲には重複を避ける單に支社の陣容を叙するに止め置く。

名古屋支社としては先づ聯絡部が通信に供給先對し敏速聯絡の任務を盡し、經濟部は各得意先への速報に遺漏なきを期し、社會部は擔當方面から大臣候補者が出た場合の取材に當らねばならない。聯絡部の一端には大朝、新愛知、名古屋三社の市内専用電話が常に待機の姿勢にある(大母は普通市内電話で聯絡する)、所謂一觸即發、チリンと鳴れば直ぐに先方の速記者が飛び出して来る。豊橋濱松の兩支局、三重岐阜縣下の各紙、それに特に本社から委嘱された静岡の新聞何れも時に繼ぎ放しの儘各擔當者は何れも耳を免のようにして、正に重要ニュースを送られるとする専用線に全神経を傾倒してゐる。他には該一ツする者もない、誠に崇高とも言ふべきシマの一時である。

日 間 に 直 る 政 戦 の 跡

を 敗 戦 ・ 丁 走 馬 燈 政 變 を 語 る

短いのは口から口に瞬時を出でずして送信する、稍長文のものは速記者が入れ替り立替りリレー式に市内専用で吹込む、殆んど同報式である、専用の傍らには速記者が録事とがり版を持つて速記者の送信するのを謄寫原稿にとり、總てが渾然一體の働きだ、此の聯絡方法は現在の設備を以てしては最善なものだと自負してゐる、先日も朝母の聯絡記者が同盟から受ける速報は他地方に比し名古屋がいつも早いと褒めて來れたのも強ち過褒ではないと信ずる。

斯くして旬日に亘る激しい政戦に緊張又緊張、徹夜に次ぐ徹夜を重ねたが、好成績に恵まれてか幸ひ一人の落伍者も出でず任務を果した事は欣快に堪へない。

社會部では幸か不幸か今度の政變には管轄區域から一人の大員も出ないで、切角徹夜の待機も手持無沙汰に終つたのを残念がらつてゐる。最後に今度の政變では電送寫眞が遺憾なく活用され新聞社を満足させた事も特筆に値ひすると思ふ、それだけに眞實部員も殆ど連夜徹夜に近い活動を殊に當支社では部員一名が岡山、高知方面へ出張不在のため非常な手不足、過勞と戦ひつゝ、闘ひ抜いた事を多とせず居られない（二二、二一、六）

△一月二十一日 再開日當日、勝負の敗者はスタートにあり、全員出動して萬全を期し、報道陣を固め、その結果「福岡日日」は夕刊後特別號外を發行し、大藏大臣の演説、櫻内、濱田兩民政代表の質問演説及び東京大相撲打出しを収録し、第一日を無事に終つたかに見えたが、記事殺到を見越して警戒の手を弛めず、次いで軍部政變の正面衝突から午後九時半廣田首相の參内議會停會を奏請するに至るまで成績頗る良好で、福岡日日編輯局長より感謝電報を頂戴し幸先よいスタートを切つた。

△同二十一日 午後二時半議會遂に解散議決と決定し「福岡」號外を發行し、大朝、大毎よりはるかに早かつた。

△同二十三日 午後四時五十四分廣田首相參内閣辭表呈呈、成績良好。

△同二十四日 日曜日のため夕方迄に全員出動、湯淺内府興律より午後七時四十五分歸京と同時に各員部署につき、福岡電報局の好意により福岡支局より關係各地への申込は極めてスムーズに取扱はれ宇垣大將大命降下と同時に一瞬にして釜山、南九州各地に送信良好の成績を挙げた。

△同二十五、六、七、八日 宇垣内閣成立難航を續く。

△同二十九日 宇垣大將午前十一時五十分參内大命拜辭、同午後十一時十分林大將大命拜受、二十四日と同様の成績を挙げ、意外に進捗せず。

△同三十、三十一日 林内閣成立込み立つ。

△一月二十一日 再開日當日、勝負の敗者はスタートにあり、全員出動して萬全を期し、報道陣を固め、その結果「福岡日日」は夕刊後特別號外を發行し、大藏大臣の演説、櫻内、濱田兩民政代表の質問演説及び東京大相撲打出しを収録し、第一日を無事に終つたかに見えたが、記事殺到を見越して警戒の手を弛めず、次いで軍部政變の正面衝突から午後九時半廣田首相の參内議會停會を奏請するに至るまで成績頗る良好で、福岡日日編輯局長より感謝電報を頂戴し幸先よいスタートを切つた。

△同二十一日 午後二時半議會遂に解散議決と決定し「福岡」號外を發行し、大朝、大毎よりはるかに早かつた。

△同二十三日 午後四時五十四分廣田首相參内閣辭表呈呈、成績良好。

△同二十四日 日曜日のため夕方迄に全員出動、湯淺内府興律より午後七時四十五分歸京と同時に各員部署につき、福岡電報局の好意により福岡支局より關係各地への申込は極めてスムーズに取扱はれ宇垣大將大命降下と同時に一瞬にして釜山、南九州各地に送信良好の成績を挙げた。

△同二十五、六、七、八日 宇垣内閣成立難航を續く。

△同二十九日 宇垣大將午前十一時五十分參内大命拜辭、同午後十一時十分林大將大命拜受、二十四日と同様の成績を挙げ、意外に進捗せず。

△同三十、三十一日 林内閣成立込み立つ。

△一月二十一日 深更に至り成立の見込み立つ。

政 變 走 馬 燈

惡 戰 苦 闘 の 十 日 間

△一月二十一日 再開日當日、勝負の敗者はスタートにあり、全員出動して萬全を期し、報道陣を固め、その結果「福岡日日」は夕刊後特別號外を發行し、大藏大臣の演説、櫻内、濱田兩民政代表の質問演説及び東京大相撲打出しを収録し、第一日を無事に終つたかに見えたが、記事殺到を見越して警戒の手を弛めず、次いで軍部政變の正面衝突から午後九時半廣田首相の參内議會停會を奏請するに至るまで成績頗る良好で、福岡日日編輯局長より感謝電報を頂戴し幸先よいスタートを切つた。

二十一日の濱田國松氏の爆論的演説に端を發する政變は廿三日の廣田内閣總辭却で具體化し、二十四日深更の宇垣一成大將の參内大命降下から組閣の血みどろな苦闘五日、そしてその悲痛な拜辭から、髭の林銑十郎大將への大命降下、月を越して二月一日の組閣完成、親任式舉行、新たな林内閣の誕生と滿十日間の政變史はこの數行の文字には到底つぐし得ないほどの眼まぐるしい戦闘だつた。

社會部からは宇多武次、齋藤正躬、前田雄一、齋藤性助、横地倫平、大屋久壽雄、田中徳、千葉愛雄、柴田勝春、秋田正男等の諸君が動員された。

宇垣氏の組閣本部は麻布の廣尾町滿洲國大使館の西下に當る東神倉庫社長三橋信三氏の空邸だ。凡そ地理的に云つて不便以上もない。中央の所謂政治的地帯とはかけ離れて仕事のしにくいことはひどいものだつた。殊に岡田啓介大將は首相官邸で、廣田弘毅氏は外相官邸と前代の組閣に足を使ふ方面から榮だつたのと、組閣本部が廣田から決めた二十五日の午前三時から早くも記者團がなげいたのも無理はない。おまけに安蘭の前庭はせいぜい三十坪しかない、そこに各社の天聲村が政治部を主力として自動車部隊を引きつれて移住して來るのだから、人口の密度は物凄い限りだ。紅白の帳幕が華やかに張り廻らされて、その中で辨

さることながら自謙自謙の嫌はあるが支員協力一致の賜と深く感謝する。（学生）

當、豚鍋、おでん、みかん、せんべい、ビール、日本酒を消化してゐる恰好は餘り配當のよくないボロ會社の閑遊會にも似たる風景なのである。

さて社會部の仕事は多い。組閣の困苦しい、接衝と動向は政治部の活躍に任せ、宇垣家の喜びの描写、凱旋將軍宇垣大將の入京ぶり、陸軍部内のたたなぬ氣勢、武人中隨一の政治家宇垣のプロファイ、これ等がスタートのニュースだ。明ければ二十五日組閣第一日、宇垣大將の動勢スケッチだ。紙面はいくらあつても足りないほどのネタだ。忙しい人の動き、パン一斤にアスパラガス十五本の朝食、鯉井ペロリの晝食、午後、時二十分の私邸出發から組閣本部入り、これで夕刊は締切だ。その夜は本部の動きの難題だ、所が大將少しも騒がず、スロモーション、なかなかの立場では見透し記事といふ奴は一切書けないのだからどうにもならない。「永い空家で好きな風呂とてなく、白鷹一合で夜食を済ますと旋風吹かば吹けと大將將。これが廿五日の朝刊だつた。

廿六日はどうにか大將の陸軍省訪問で稍々色めいたが、これだけの描寫が主で、組閣本部は龜ノ子以首を甲羅に突込んだ様に静中静よく書くことがなくなつて來た。若くは組閣の宇垣一黨だけではない。社會部の呻吟も實に甚しい。毎日食事メニューの羅列でもないし、祝ひ物の廣告でもない。

組閣完成祈願のデモ隊にも飽きる。大將の日常は型の如く、昏迷・迷離・難産・重壓・死闘、どんなゾオキヤバラリも盡きる位にかき立て、いやもう骨を削る苦しみも連綿をつづけた。「何も申せませぬ」といふインテリゲンチの連綿だけでこの社會面はそこをねらひだ。我々の社會面はそこをねらひつて活動しなければならぬのだ。

氣のよくない日が二百もあつて、吹き通しの天幕村の中で、寒さに慄へて名文をものする光景に浴した。時局の顛事は敢て二週つて二月一日から開演はばたと決定二日早朝の伍堂商相兼鐵相の就任受諾で、さしもの政變も終幕を告げた。ほつとしたのは林首相であり、政治部の諸君であり、また我々であり、國民であつた。

この一旬餘に亘る走馬燈の如き政變史は凡ゆる角度から見て大きな教訓と示唆をわれわれに與へた。政治部事の大衆化、普遍化のため一生面を拓き得た意味でも汗みどろの社會部の苦闘は全然無駄ではなかつたと思ふ。(A生)

聯絡局便り

生 嘯

一、聯絡機軸の制定配布
聯絡事務は個々の實情に應じ夫々長高度の能率を擧げることが必要であると同時に全國を打つて一丸とする有機的活動が大切である。この有機的活動を遺憾なく發揮せしめんがため當事者の心得べき諸點を系統的に掲げ同盟獨特の指導精神の下に統制ある活動を開始せしむるが本操典の目的である。その内容は第一章綱領、第二章職務、第三章電話聯絡(第一節總則、第二節送信、第一節ニユースの選擇及整理、第二節送信心得、第三節速記、第四節專用線、第五節經濟通信、第六節英文通信)第四章電報聯絡、第五章電信送受、最後に附録として數字の聯絡方法、假名綴字及歐文綴字の説明方法、電文綴字方法を掲ぐ、右は舊版全國の聯絡當事者に配布し一月より實施した。

際しては臨機の非常措置に依つて通信の聯絡を斷らねばならぬこれ等の場合に處して遺憾なからしむるため實情に即した通信非常聯絡規定を制定し一月より實施することとした。その内容は第一章緊急通信非常聯絡方法、第二章局部緊急通信非常聯絡方法、第三章通信障礙の場合非常聯絡方法、第四章緊急内報聯絡方法の四章に分れて各具體的に指示を與へたものである。

三、東京福岡間專用線紙上懇談會開催
電話聯絡の仕事は送受双方が互ひに相手方の立場をよく諒解し意思の疎通を完全しておくことが最も大切である。殊に東京福岡間直通専用線の如きは沿線十ヶ所の本支社局が一齊に送受を行ふのであるからこれが運用方法については全部の氣持がピッタリと一致して一糸亂れぬ行動が絶対に必要である。所が互ひに遠隔の地にて當事者相互懇談の機会が減少しない、そこで思ひついたのが紙上懇談會である。話題の範圍を「専用線に關する事項」に限定し沿線各地に於て氣のついたこと、感じたことを隨時回狀で知らせ合ふといふ仕組みである。一月九日より開始し東京、横濱、名古屋、大阪、岡山、關門、福岡等から各々忌憚なき意見や希望や感想や質問等が出て専用線運用能率増進に裨益する所甚大なるのみならずニユース取扱についても多大の参考になり仕事の改善に貢献してゐる。

ニユースの聯絡成績

第七十議會は再開第一日で停會となり次で廣田内閣總辭職、宇垣大將に大命降下、組閣五日の後遂に産産、改めて林大將に大命降下



錦を削る各社寫眞班の放列

これ亦復想に反し難關達着社餘曲折五日の後漸く組閣と誠にも多難な政變であつたが通信聯絡戰線の所謂臨時編成の構へて政治部を始め編輯各部と呼應し前後十二日間、不眠不休の活動を續けた。その實況の一例

大命降下の刹那の本社内聯絡室の光景は東京、福岡間専用線、市内同報線、青森、小樽、札幌、仙臺、新潟、富山、長野、甲府、岡谷、桐生、前橋、靜岡(二線)水戸、宇都宮の各地に對する市外電話等合計十八本の電話の口先揃へて一齊放射し實に壯觀であつた地方支社局も亦これと同様管内各社へ速報し一瞬を出でずして全國津々浦々まで傳播されたのである。全國各地よりは「速報成功、御奮闘を謝す」の謝辭を寄せられ全員は連日の勞苦を忘れてその成功を祝し意氣益々昂るのだった。一月廿一日議會第一日の成績は各地共極めて良好の様様で「議會記事の聯絡成績申分なし御奮闘を感謝すると共に今後此謝辭を願ひたい」其他これに類する謝辭續々と來り一同大に氣を良くして明日は更に馬力をかけてやらせと誓つた途端停會となつたのである。

人事往來

- 古野最務理事 一月十八日夜大阪へ、廿三日歸京
- 青島支局長伴野詔光氏 一月十三日東京、二十三日歸任
- 濟南支局長塚島氏 一月十五日東京
- 日本商業通信副社長山本滋雄氏 一月十五日來社
- 福島民報營業局長古和口虎雄氏 一月十六日來社
- 大矢信彦氏 一月二十日大阪へ、二十一日東京へ
- 高知新聞社長野中植吉氏 一月廿一日來社
- 神戸日日新聞社長 岡田定信氏 二月一日來社
- 二月一日新聞社長 山根文雄氏 一月四日來社
- 朝鮮時報社專務理事今川龜之助氏 一月三日來社
- 京城日報社副社長 御手洗辰雄氏 二月三日、十日來社
- 新發田新聞社長 長谷川寅作氏 一月九日來社
- 海濱新聞常務 玉井喜久馬氏 一月十三日來社
- 滿洲國々務院情報處事務官岡田益吉氏は、二十日來社引報協會の問題にて上田理事と會談した

報 週 濟 經 際 國

△社員購讀及び社外勸誘に就て▽
國際經濟週報御入用の方は社員(準社員、ボイイを含む)に限り特に左の實費を以て自宅に郵送します。御希望の方は直接週報部に御申込み下さい。
一月 五十錢
尙、社外各方面に對する購讀勸誘を願ひます。定期購讀者獲得の場合に入金額の三割の手數料を差上げる内規になつてゐます。

國 際 寫 眞 新 聞

讀む新聞から見る新聞へ!
「同盟通信」の世界ニユース網から日々集まる最新の内外寫眞を編輯せる知識と興味百パーセントの寫眞新聞。
毎月一回發行
菊倍版光澤紙
每號五十頁
購讀料 一部五十錢
一ヶ月 九圓
社員に限り特別割引あり

交換の任務を「理解して下さい」
朗かに、正確に、敏捷をモットーとして、聲の受付であり、聲の應接間である仕事について居る妾達で御座ります。
電話はいかに通信事務上重大なる役目を果して居るかと言ふ事は今更申上げる迄も御座りません。例へばどんな些細な事であつても、イの一番に用ひられるのは電話ではないでせうか? 唯今では國際電話までが開通致し何十里、何百里、何千里の離れた所ですら電話一つで大事な使命がはたされ居ります。まして通信社の連絡部こそは一分一秒も電話なしでは事務が取れません。
妾達の仕事は一日中暇の有ると云ふことは絶対にありませんが、殊に正午の前後、午後五時前後二時間は目の廻る程の忙しさと、交代する事も出来ません。外線からはしきりに呼んで來るし、内線では「何をグズグズして居るのだらう」と云はぬばかりにして居ります。
外線へ應接すれば「何をして居る早く出よう」と云はれ、内線へ應答すれば地方へ申込み、五分も立たない内に矢のやうな催促、他へ出れば住所は愚か、電話があるかないかもわからず氏名さへもはつきりしない番號を調へさせられやつと思つてお接ぎすれば、あたりまへ、又わからなければ、こちらの落度のやうに「なければい、よ」とのお返事を受けた時程遺憾なく思ふことはありません。
お話中であつたり又お接ぎが少しくれたりしますとそれ親切の厚意がないとお叱りを受けますが、しかし其の時は夢中です。唯「相済みません」と後の仕事を續けて行く妾達です。
何卒電話機及び交換手と云ふものを御理解下され通信事業の重大使命の一端を背負つて健氣にも必死の努力を續けて居ります妾達を御鞭撻御指導下さいませ。

ニュースに對する 責任と確實性を痛感

局 支 臺 仙

一月二十一日議會再開、二十二日停會、二十三日午後廣田内閣總辭職より一月二十日林内閣成立までそれはまことに轉換期にあるわが國政治の苦惱の十日間であり、新聞人にとつては華々しくも苦悶の十日間であった。

今次政變は大同盟成立最初の政變であつて、政變のもつ政治的意義と併せて考へてまことに感銘深い報道戦であつた。

政變突發以來、わが支局は平島支局長以下全員殆ど連日徹夜の報道陣を張つたが、今その跡を顧みるに個々の成績はその都度電話にて支局擔當本支局支局長に報告した通り上乘の成績で文字通り大勝利に次ぐ大勝利であつた。

これは一に本社連絡のスムーズにいつたことによるが、就中わが東北は西部と違つて後約に限定されてゐる通話の中にも、二十一日の廣田内閣が閣議の結果解散方針を決定した號外や、同日夕刻の總辭職決定などは幸運にもそれ／＼その時間の後約で入手し得たことであつた。（後者の總辭職決定は午後四時五十分であるが、支局受信は四時四十八分の後約）その他の重要ニュースは何れも好都合に後約時間に入つた。

この本社連絡の大成功に加へて支局、地方新聞社間の連絡も例年の雪害による電話障害などもなく極めてスムーズに運ばれ、政變一段落後管内各社から讀解と禮状を寄せられ、支局員一同些か勞に報いられた喜びが溢れたことを喜んでゐる。

多しい一時的報道戦は見られない感はないでもなかつたが、それだけにニュースに對する責任と確實性といふことが強く痛感されたと同時に、各社とも唯一の通信機關として同盟依據は絶對的で過去に見ることのなかつた程の緊張張り、山形、福島、岩手の各社も徹夜で受信して呉れたことなどま／＼責任の重大に緊張したことがあつた。今日大同盟の競争相手は東京各社であつて、朝日、日日、讀賣三社の活躍は相當目ざましいものがあつたが、猶われらの報道陣を脅かすには至らず、號外貼出などは毎回地元紙「河北」の獨壇場であつた。（五生）

大同盟の威力發揮

函館支局

解散の危機を孕んだ第七十議會は休會明けの二十一日午後一時十分より開かれたが、果然國軍海軍問題を繞つて濱田國松氏（政友）の「僕が軍隊を侮辱した言葉があつたら、割腹して君に謝する。無かつたら君割腹せよ」の名科白を最後に遂に政局は急角度の轉回を見せ、政府は已むなく二十一日より二日間の停會を請ふこととなつた。

まさに政變來りであり、大同盟誕生後最初の大事業にぶつた一評である。政變と云ふのは、普通の部分的な大事件の突發と異つて一種の興味も手傳つて知らず／＼興奮と緊張に身の引縮るを覺ゆるものである。地元は云はずも

がな、遠く樺太の果まで、各社の神經はかん／＼にふる。わが大同盟にとつても實に絶對の腕だめしであり、その威力を發揮すべき秋なのである。

從つてこの重大な秋にわが社の通信網に動脈硬化的症狀を呈するやうなことがあつては所謂大同盟の鼎の輕重を問はるばかりでなく、わが社の報道を命の綱と頼む各社を見殺しにせねばならぬと云ふ重大責任もあるもので、隣さの間も要知なるを得ない譯である。

支局の非常勤務の状態に入つたのはこの日からであるが、本社の一糸亂れざる報道陣と青森支局との完全なるチームワークと相俟つて刻々、凱歌を擧げ得たことほまことに愉快なことである。即ち、停會に次いで廿三日午後四時五十分突如廣田内閣の總辭職となり引繼いで二十四日午後九時十分（受信時間）宇垣大将に午後降参の閃光の報道から二十一日降参時の重大なる政局の動向から一月一日午後十一時十分（受信時間）林武十郎大将に大命が降下するまでの目まぐるしい程の政局の再轉三變にも徹頭徹尾大同盟の威力を發揮して、さ／＼かの過激もなく、各地方新聞社をして拍手喝采せしめたことは何と云つても大きな收穫であつた。

又、金に糸目をつけないで速報の亂射亂撃に相當神經を焦立たせる東京各社のうちでも特に東朝、東日の如きはその土地の印刷所で號外を發行すると云ふ驚奮を通ずるなどして地元新聞社の心算を寒からしめたことも一再ではなかつたが、それにも拘らず、わが大同盟の報道がいともこれ等を一步も二歩も引離してリードしていったことは、全く支局としても感謝に堪へないところであつて本社御指揮に當る方々は勿論、これが取

材に衝る各位の眞に不眠不休の御活動の程を遙かに御想像申上げて心からなる感謝の意を表する次第である。

熱涙を呑む敗戦

正に千慮の一失

門 司 支 社

色々な重大な意義を含んで再開された第七十議會は一騒動も、二騒動も波瀾必至は想像に難くない、從つて我等報道陣を馳騁する兵士の氣分をいやが上にも緊張せしめその開幕日を二十一日を待たせしめたのである。この間島山崎局長より「我が同盟にとつては最初の議會なり、聯絡各方面に遺憾なきを期し、始終優秀なる成績を擧げよ」との議會對策に關する聯絡回状が我等の戦場に掲揚され兵士どもの士氣は一段と昂揚され兵士どもの指合通り最高度の能率を發揮すべく聯絡陣容の整備を爲し、開幕の二十一日を迎へたのである。

俄然、豫想は中し政友の老闘將濱田國松氏の投じた「政驚呪ふべくんは軍部又呪ふべし」との陸相に對する第一彈が美事爆發し、議會の空氣は極度に險惡化し、暗雲は白雲の殿堂に無氣味な影を曳いて夜を迎へたのである。此時既に本社からは「午後十時頃重大發表が出る、各員待機せよ」との指令が飛ぶ、言ふまでもなく手配はOK。時の到るを待つ間もなく、「議會一日間停會する」との號外第一報の速報が專用線に飛んじ此處に今回の政變報道戦の火蓋が斷然他社を壓して切られたのである。それから議會解散に決す、水野渡相深夜の調停、内閣總辭職、宇垣大将に大命降下、流産の危機

から拜辭、林大将に大命降下、又も難航から照縮兼益の内閣成立までの慌しき變轉と激戦の十三日間には本社各部の水も漏らさぬ堅陣と、その華々しき大活動の驍尾に附して我が支社も手薄の下關支局を固めて全員夜を日について不眠不休の非常勤務を編成しこの政變報道戦に活躍を續けたのである。二十四日及び二十九日夜の大命降下の速報戦こそは九千萬國民注視の焦點であつたのである。我が支社は管轄、支局、四新聞社と緊ぎ放しの非常聯絡を採り（大朝、大放は即時専用電話聯絡）且つ緊ぎ放しの電話機のコードを延長して専用一番機に近接せしめ時の來るのを固唾を呑んで待機した。常に喧嘩そのものである我がオワイも此時ばかりは全員無言緊張の一字に靜まり返り、無氣味なる嵐の前の靜寂の數分間であつた。果然、宇垣に大命降下」の叫聲は聞え入り各社に速報され此爲に靜寂は一瞬にして破れ忽ち喧嘩へと急轉倒すニュースの聯絡

に夜を徹したのである。然しこの前者宇垣大将に大命降下の速報戦は完全に朝日にシテやられたのが残念だつた。正に千慮の一失。即ち我が社の入電は午後九時五分、然るに朝日は八時四十分頃には既に後藤内閣の首班に宇垣氏奕「飛」の號外が夜の街々を鈴の音高く飛んでゐたのであつた。餘りの手早さ激速さにその入手模様を調べて見ると、朝日はこの夜長間滞在の宇垣大将の身邊に萬全の警戒網を張るべく長岡通信部と東京とが打合のため通話中折よくも宇垣氏御召の電話をキャッチ速報したのだと、遅れ馳せの各社一齊東京への申込み殺動では同地方の電話回線状態から察しても簡單には参らぬ譯で、この戦、全く朝日の幸運に壓せられ思はず唇を咬み熱涙を呑んで敗戦を確認せざるを得なかつた。ところが後者二十九日夜の林大将の場合は湯淺内府東京着より宮中参入「平沼男郎」再度報中参入と云ふ刺戟的な動向の速報は完全に本社をリードし遂に大命降下の決戦にも幸運を奪還して凱歌を揚げ快戦を叫んだ。

大命降下の戦は前記の如く引分に終つたが、然し他の幾多の速報戦（二十六日の組閣難で流産に直面、三十日の林内閣の陸相杉山總監に決定の二つを除いて）に於ては常に兩社をリードし優秀なる成績を得、その威力を完全に發揮してこの戦の幕を閉じた事を喜んでゐる。（T・五生）

餘裕綽々たる快戦

特 種 光 る

局 支 都 京

こととは不可能である。しかしそれだけに各方面から絶對の信頼をかかけられ、競走相手のないといふこ

とは責任の無限大であることを痛感せしめられるのである。

平常は十二時前後に朝刊を締切る京日、日出兩社も一月二十一日夜、突然の議事停會を請以來は二時前に締切つたことなく、一月一日夜の如き四時過ぎまで頑張つた。その結果として翌一日の朝刊紙上には朝日、毎日(京都版)にも載らない、「伍堂中将商相兼鐵相に就任確定、中島久平氏入閣せず」が燃然と光つてゐる。締切後のニュースを紙上に反映させることが又一苦勞である。打撃く強行勤務に全員へとく、盛んにうがひしてゐる用心深いものもある。

この間、號外の發行されること京日十回、日出六回、一月二十一日、號外の發行されること

郷土内閣に凱歌

— 政變連絡記録 —

局 支 澤 金

一月二十一日の衆議院及び初日に濱田國松議員の投した一石が導火線となり、政局は急轉直下險惡化し議事停會、内閣總辭職、宇垣大將に大命降下、流津、林大將に大命降下、林内閣成立等々十餘日間に亘り走馬燈の如く目まぐるしいものがあり、寒氣凛冽肌を裂く北國の嚴冬に殆んど、天時中全員不眠不休大同盟の使命を體し、其威力發揚に大活動を續け、終始大成功を収めたことは御同慶の至りと存じます。今其主なるニュースの連絡經過を御報告致します。

△二十四日 廣田内閣の總辭職により何人が後繼内閣の大命を拜するか萬人懸望する處であつたが、わが社は宇垣大將を最有力なりと報ず、大阪より午後五時四十五分、四十六分の豫約にて受信、同四十八分福井及富山へ急報したが富山は本社より受信

九日、京日は組閣本部における林彌三中将の談話全文を號外に出し殆ど配運(一部は不能)した後、明全文を逸早く差止以前に配運したのは恐らく京都以外にはなからうと思ふ。

大阪の號外が京都に運ばれるまでは四十五分を要するので前云つた通り正確な時間の比較は出来ないが、このハンデキャップを通算してはなほ餘裕綽々たるもので、京都の號外が配運されてから忘れなげな時分に大阪新聞の號外が配られてゐるのは當然のこと乍ら痛快である。

議事停會明を控えて緊張は更に緊張へと續いて行く。(山本生記)

大命降下は午後八時半より同九時頃との豫想の下に、午後八時半頃より大阪發信にて金澤發信、金澤發信にて富山間(九時頃より)各々臨時急報を以て續ぎ放しとして連絡、待期の姿勢を執る、恰も午後九時十分宇垣大將に大命降下の報あり、大阪、金澤、富山は完全なる連絡を保ち凱歌揚る。

△二十五日 陸軍中將部會議にて宇垣内閣に斷乎反對の意見に一致午前一時五分受信其他の記事と共に富山、福井へ發信

△二十六日ヨリ二十七日迄 組閣に關する種々の記事轉載、富山福井兩支局へ刻々中繼す

△二十九日 宇垣大將渾身の努力も空しく組閣の念願遂に成らず萬辭の涙を吞んで午前十一時五十分參内大命を拜辭した。午後

快戦の嵐の中に

高松支局 石井生

廣田内閣の總辭職、宇垣内閣の流産、林内閣の誕生と、そのぞき眼鏡のからくりのやうに、それからそれへと變轉した政變に、正確連絡を誇る同盟の名譽のために、私達支局員は血みどろに戦つた。そして勝つた。が、勝つた原因の大半は本社の御指導と岡山支局の聯絡つしきを得た賜だ。だから取て書かない、沈黙を守る。もつと貴重なもつと教材になる玉稿が續々他支局から集る事と思ふ。私はそれを見たいのだ。友邦支局の活動状況を知る喜び、其歡喜に胸を躍らせたのだ。そして私は自らの勝利を平直に書きたい。苦しみ、心をそかに慰めたいのだ。

(一)

一月十六日午前十時三十分、突如、何等の豫告もなく、ぶつたりと切斷された。

「あつ、切れた、どうしたのせう。もし、もし、もし、」

擔當の吹込係りがダイヤルを廻して叫んだ。瞬間、私は、ぎくりと胸にこみ上げる不吉な豫感にをのいた。瞬間、間に、次ぎから次ぎと、命脈を斷つやうに、購讀者全部の電話が不通となつた。軍需インフレの波に乗る商賣高の後後で、株式相場は大波瀾だ。狂つた氣運計の水銀の様に躍る。躍る。

「もし、もし、もし、」

數名の女子吹込係りが必死に聲を張り上げ、萬全をつくして呼出しに努めたが、信號の應答は

金澤發信にて大阪と、富山發信にて金澤と續ぎ放しとしたが、恰も十一時十五分頃大命降下、同四十五分急報す

零時三十五分大阪より豫約で受信富山へ、同三十七分福井へ、同四十五分急報す

あつても相手方が出て来ない。「駄目だ、どうしても出ない、針で刺されるやうな、無氣味な冷たい空氣の中に、十一名の支局員は黙つて顔を合わせた。昂奮からさめて、やゝ蒼ざめてゐる。「一齊檢舉だ!」とはつきり分つてゐても、それを口にする者さへない。電話合圖局後、年の七月十一日、颯風の如く變つた懸下株界未曾有の檢舉で、購讀者の大半を失つて半年、その間緊卵の危機に彷徨した支局立直しに晝夜の別なく奔命してやつと成果を収め得た矢先だ。「もう大丈夫だ、立直つた、しかし、今度檢舉があつたら全滅だ」支局員の誰にもなしに私は云つたことがある。みんなはそれを覺えてゐる。檢舉とは「全滅」の代名詞と云つてもよい。曾つての苦しい思ひ出の痕は、餘りに生々しく癒えてないのだ。だから恐ろしくて云へなかつたのだ。死んだやうに轉つてゐる電話機と同じやうに、みんな睡んで沈黙してゐるだけだ。

(二)

香川縣下全圖の檢舉軒數五十九除取調へ人員約八百名、取引所法制定以來二十餘年全國稱有の大檢察大阪有數の取引員迄起訴されるに至つた大事件、しかも回の檢舉の時既に滅亡を豫期されたに拘らず、嵐の中に敢然と立ち上つて、がっちりスクラム組んで再建に苦闘、遂に凱歌を擧げた私達支局員も矢張り力折れて、無念の音を囁くやうに外ない。最悪の事態に突き落された血に染つて倒れるとも、もう一度立ち上るつもりだ。

に降下の報東京、富山、富山、金澤、大阪本社支局間續ぎ放し通話で富山と大阪より

今次政變を

通じての體驗

局 支 森 青

合同實現以來我が青森支局は、北海道における日食觀測、陸軍特別大演習、續いて秋田縣庁去澤のダム崩壞事件と、大ニュース戦の連続であつたが、受信連絡方面に於ても當時東京、大阪に次ぐ廣汎なる供給連絡地域(青森、弘前、秋田、函館、小樽、札幌、旭川)を抱擁してゐながら、尙ほ專用線施設の輪送能力の關係上、關東、關西に比べて比較的締切時間の早い當地方としては今次の政變を懸る號外戦には一方ならぬ苦心があつた。幸ひ一月廿一日の議會再開から一月廿一日の林内閣成立迄の十三日間終始、同盟スピリットの眞價を遺憾なく發揮し得たが偶々政變と札幌における全日學生スキー大會、東京大相撲春場所とが重なつたのだから、其多忙振りも想像以上で全支局員は正に文字

井に對し急報すると同時に市内新聞に對しては先づ電話を以て速報後直ちに原稿を配信したことは勿論である。大命降下、拜辭等分秒にして連絡出來たことは大成功と存じます。

殊に金澤市に於ては林總理を首め中村陸相、伍堂商相兼鐵相は石川縣出身であり、斯かることは石川縣としては未曾有なことで各新聞は號外を連發して、速報に努めたが郷土内閣の成立を祝福し全市を歡喜の巻と化せしめたのであります。此間に於ける本社連絡各支社局各位の御奮闘を感謝すると同時にわが支局全員一名の落伍者も出さず、其使命を全ふしたことは幸甚の至りです。(櫻鐵三郎)

井に對し急報すると同時に市内新聞に對しては先づ電話を以て速報後直ちに原稿を配信したことは勿論である。大命降下、拜辭等分秒にして連絡出來たことは大成功と存じます。

殊に金澤市に於ては林總理を首め中村陸相、伍堂商相兼鐵相は石川縣出身であり、斯かることは石川縣としては未曾有なことで各新聞は號外を連發して、速報に努めたが郷土内閣の成立を祝福し全市を歡喜の巻と化せしめたのであります。此間に於ける本社連絡各支社局各位の御奮闘を感謝すると同時にわが支局全員一名の落伍者も出さず、其使命を全ふしたことは幸甚の至りです。(櫻鐵三郎)